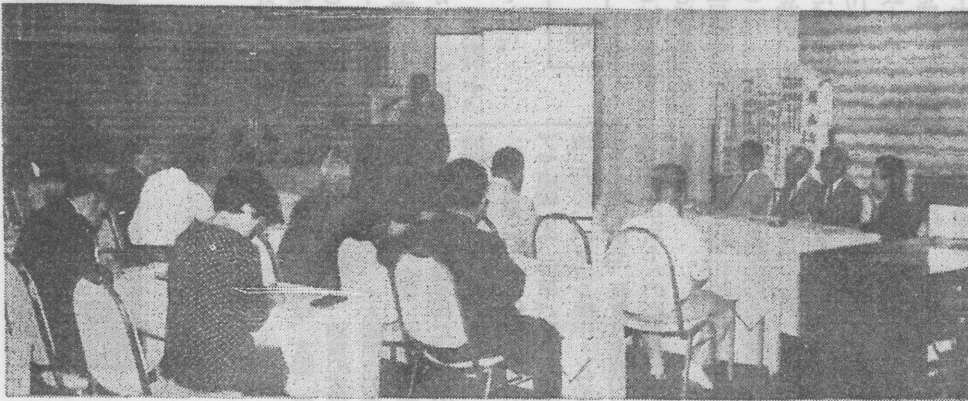


昭和61年度総会開かる



本庄高校同窓会の昭和六十一年度通常総会は、去る六月十四日午後三時半から埼玉ランドホテルで開かれた。本年度は井上恵、

本高同窓会報

発行
本庄高校同窓会
会長 岡 祐孝
事務所 本庄市銀座3-5-8
岡 病院 内

総会は岡会長の挨拶の後、立川副会長議長となり
一、昭和六十年度事業報告並びに収支決算報告（江原会計）
二、監査報告（山本監事）
三、昭和六十一年度事業計画並びに収支予算案承認（江原会計）
四、役員改選（立川議長）
五、新会長挨拶並びに新役員紹介（岡会長）
六、各支部長紹介
以上の議事が審議され、いずれも原案どおり全会一致で承認された。

そのあと来賓として母校校長高山先生及び恩師を代表して井上恵先生の祝辞を頂き盛会裡に終了した。

昭和61年度事業計画

- | | | | |
|-------|------------|----------|-------|
| 61年4月 | 定例役員会 | PTAとの懇談会 | |
| 5月 | 定例役員会 | | |
| 6月 | 同窓会会報№5発行 | | |
| 7月 | 定期総会開催 | | |
| 8月 | 定例役員会 | | |
| 9月 | 定例役員会 | | |
| 10月 | 中高連絡会 | 11月 | 定例役員会 |
| 11月 | 同窓会会報№6発行 | | |
| 12月 | 会員レクリエーション | | |
| 1月 | 定例役員会 | | |
| 2月 | 事業所支部との懇談会 | | |
| 3月 | 支部長会議 | | |
| 4月 | 定例役員会 | 12月 | 定例役員会 |
| 5月 | 支部長会議 | | |
| 6月 | 定例役員会 | | |
| 7月 | 支部長会議 | | |
| 8月 | 定例役員会 | | |
| 9月 | 支部長会議 | | |
| 10月 | 定例役員会 | 11月 | 定例役員会 |
| 11月 | 支部長会議 | | |
| 12月 | 定例役員会 | | |
| 1月 | 支部長会議 | | |
| 2月 | 定例役員会 | | |
| 3月 | 支部長会議 | | |



御挨拶
同窓会長 岡 祐孝

初冬の候、会員各位には、健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素、同窓会の運営には深いご理解を賜り、格段のご協力を頂いていることに深甚なる謝意を表し、衷心より厚く御礼申し上げます。さて、待望の本高同窓会報第六号が発行される運びと相成りました。ご披見頂ければ幸甚に存じます。本年六月に開催された昭和六十一年度本庄高校同窓会定期総会も、恩師、井上恵、染野利七、関根みよ、三先生をお招きして盛会裡に無事終了致しました。茲に謹んでご報告申し上げます。皆様の本高同窓会も、年を追う毎に、充実し、発展の一路を辿っております。組織の整備拡充

進路状況に思う

校長 高山 晃

三原山の大噴火のニュースを聞いて、私の本校在学当時の浅間山の噴火と、たなびく噴煙を思い出します。何か世の中が大きく変動する兆を予感する。良い方向に変わってほしいものです。

さて、同窓会員の皆様の本校に寄せる愛校心をひしひしと感じ、感謝しております。その具体的な事柄の一つは大学等の進学率の問題です。旧制中学時代と高等学校時代とでは、時代の進路状況の変化、時代の変化といえ、もっと良い成果を期待する声です。学校としては、進学率を高めるための対策を検討し、可能な事項から

協力、同窓会設立の本旨に則って鋭意、努力致す所存でございますので、今後共、宜敷くご支援ご協力の程お願い申し上げます。

本部役員

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 会長 | 岡 祐孝 |
| 副会長 | 立川大作、竹並栄一郎、橋爪茂夫、関口一郎、吉田建治、高木敏子、竹内清四郎 |
| （教頭） | 岩田 淳、萩原基三郎 |
| 会計 | 戸谷全亮、江原清吉 |
| 監事 | 山本厚生、内野ヨシエ |
| 顧問 | 塩原英雄、持田直次 |
| （校長） | 高山 晃 |

母校クラブ活動近況

教頭 岩田 淳

昨年、意外な好評をいただいたので、と本年も同様の企画を編集部から示されました。顧問の先生方の協力の下、以下の報告となりました。全体に上昇ムード、は手前ミソでしょうか。(一)内数字は、部員数で男・女の順です。加入率は79・7%でした。

文化 部

文芸部(7・16)は、年二・三回の詩集発行を中心に活動。柏樹祭には「邊境」第二号を発行。

社研部(12・24)は、「いじめ」をテーマに研究を進め、柏樹祭にまとめて発表した。

考古学部(10・10)は、例年通り、六月の中間発表と九月の柏樹祭での発表に中心を置いた研究活動。「古墳」が本年度のテーマ。

化学部(5・6)は、テーマを特定せず、折々に部員の希望で研究題目を設定、基礎・基本を重視した実験を行っている。

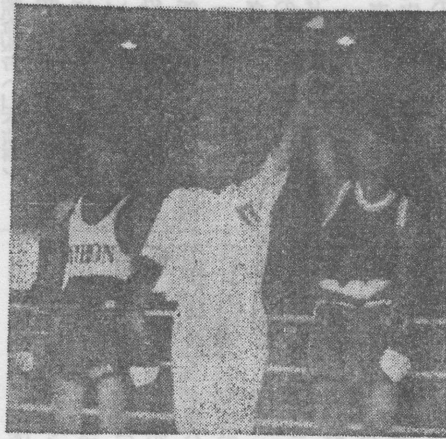
生物部(3・3)は、両生類の実験動物化を中心テーマに研究し、柏樹祭に発表、更に、「イモリ」の骨形成について」のテーマで県北から金賞に選ばれて県科学展中央展に出品、優良賞を受けた。少ない部員ながら中味のある実績を残

した。地学部(18・17)は、太陽、気象、流星、天体写真、地質の五班に分けて活動し、「太陽黒点の増減」で地区展の金賞、これも科学展中央展で優良賞を得た。不断の地道な観測の成果といえる。

美術部(17・19)は、春季写生旅行に始まって、五月の県美術展、市内で行う「六月展」、夏季写生旅行、柏樹祭、十一月の県北展等と休みなく活動、県美術展は三八、市民展の「麗原展」では六人の入選者を出した。

書道部(0・7)も、少人数ではあるが毎日活動し、多方面に作品を発表、第二回日本武道館書道大展開覧会で優秀団体賞、近江神宮全国献書展では、持田美穂子(3年)が献書会賞を得た。

演劇部(5・15)は、高校演劇連盟に加わり、公演会、地域高※



インターハイ出場の伊丹雅人君(右)

が増え、連日一時間半の練習に励んでいる。その成果は一寸先か。

柔道部(16・3)は、恵まれた素質の選手が多いが、軽中量級に集中するため団体戦はいま一歩、来春の階級別に期待が按ずる。

サッカー部(50・2)は、県北大大会優勝、各種県大会ではベスト8・16の好成績だが、ここ数年の実績からは不満という。休日練習を重ねる力も充実して来ており、来年からの再飛躍が期待される。

テニス部(40・20)は、大所帯にコートが男女に各一面という悪条件の中で活躍。男子は県北でシングルス二位、ダブルス三位、県大会へも常時四・八チームを送っている。女子にしても、素質・意欲があるだけに練習場不足が無念である。

軟式テニス部(12・26)は、最近興部数の減少が悩む。練習への取り組みが真摯なだけに復活に期待したい。

水球部(14・4)は、一年に男子七名加入、スイミングスクールで練習を重ねる者もいて来季に期待したい。今年は県北総合三位個人では小林肇(三年)が百、二百平泳で二位に入った。

スキー部(12・12)は、シーズン間近でトレーニングにも熱が入っている。前シーズン、県体では星昂子(三年)が一位、福島哲也(三年)が男子で三位、その結果県東大会に小原肇(二年)長崎由佳(二年)石田みどり(二年)。

インターハイに長崎が出場した。

野球部(22・6)は、昨秋10名で新チームとなり、本年四月に14名の一年生が加わり活気が出てくる。公式練習試合通算17勝26敗3分け。夏の大会は三回戦で七・六と人間高に惜敗。

ソフトボール部(0・19)は、今年待望の県大会出場、ムードも上昇中である。

体操部(3・4)は、生徒大会十二位と、やや低迷が続いているが、練習は毎日欠かさない。部員の数とやる気づくりが先決だ。

卓球部(11・8)は、卓球王国埼玉にあって、八年間連続で難関の県北代表(三位)となっている。来年地元で開催の県東大会への出場をのぞいて見ている。

陸上部(18・8)は、生徒大会に井上隆(二年)が三段跳で六位入賞し、県東大会出場を果たした。新人戦では、県北大で男子総合二位、トラックの部優勝と力をつけて、県大会では五千米で武蔵鷲司(二年)が二位に入賞した。昨年のグランド整備、本年は照明設置の期待に込める意欲満々である。

バレーボール部(21・31)は、男子も着々と力をつけ、県大会出場を果し、新人戦では県ベスト16まで上昇、女子は相変わらず県大会への代表権をかつちり、近々もう一歩大きく飛躍を張り切っている。

バスケットボール部(21・21)は、男女ともに県北四位の県大会への代表権獲得にあと少しのところ。女子は長身者もほしいと云う。

ボクシング部(11・6)は、ユニークな部として注目されているが、本年はバンタム級の伊丹雅人(二年)がインターハイに出場して、全国第三位入賞の快挙を果した。毎日一時間半の練習を積み上げた成果である。

登山部(19・0)は、二回の県大会の他、年間六回の自主山行を実施。本年は夏の合宿が北アルプス後立山縦走、秋は南八ヶ岳縦走。

運動 部

弓道部(17・17)は、毎日の練習を欠かさずがんばっているが、コチ確保と道場の整備という課題が昨年同様残っている。

剣道部(20・9)は、男子部員

※校との交流など学習を兼ね、例年通り年三回の公演を目指している。活気復活のムードである。

茶道部(1・30)は、水曜日の放課後を定例日に、平手前のけい古を続けている。

放送部(5・21)は、待ちわびた男子が入部、活気が急上昇した。六月のアナウンスコンテストで、福本寛子(二年)が地区予選の五人の通過者に入り、入部をはいした。

恩師の便り

今回も恩師のたよりを特集しました。昭和34年卒から昭和43年卒の同窓生を対象に一〇名の恩師に近況をお訪ねしたところ快く御協力が得られましたのでなつかしいお便りを謹しんで報告します。(着任順・敬称省略)



藤本(矢崎)芳子
(二〇一三八)

私が本庄高校から朝霞高校に移動したのは38年ですから、23年たったわけでその間に、県南には新設校が続々出来て再び新座北高へ移り、現在は北高で非常勤講師です。転任する度に、やはり移動してよかったと。心身共に倍ほどになり、冬のスキー、夏の鯉波だのなつかしく思い返しています。(朝霞市三原三二七三七)



久保田正義
(二二一四八)

(二二一四八)



松本(松崎)恵巳子
(二二一四七)

本高に着任して七年目に生まれた長男は東京体大、その四年後に生まれた長女が一歳になった孫を連れて毎土曜日に訪れてくれます。おかげで暇をもて余すこともなく人生の峠を越えました。庭の一隅に小さな畑を得て、菜を作り



森田 勇
(二四一五四)

雑草と根くらべ。茶の湯を帰として五十の手習いを続けています。(高崎市浜尻町九〇一五)



石井 薫
(二四一四七)

生徒として五年、教師として二十三年、もの心ついてからの人生の半分を本庄高校で過ごしてきた。昨年十二月一日付で本庄養護学校長の任期終了をまたず、上里町教育長に就任いたしました。幸い健康ですから、これからは町のためになんらかのお役に立ってきたいと考えております。本高の発展をいつも願っています。(児玉郡上里町堤七〇八)



加藤 博
(二五一三五)

本高と大宮高を結ぶ校長に、塚原先生、黒崎先生がおられます。一期一会と申しますが、本高で始めて教師となり10年間お世話になりましただけに、未熟で生意気とはいえ、ひたむきだった日々が、今はほろ苦く懐しく思われます。また担任した生徒から、飯島君、竹本君らのよき教師が出て、活躍していることを喜んでおります。(春日部市小淵山下九八一一)



大野 福治
(二五一五三)

同窓会の皆様、お久しぶりです。昭和53年4月児玉高に転任一年後、鶴岡高定教頭3年、熊谷工高教頭4年、本年4月浦和養護学校長と



小林 泰雄
(二八一四四)

去る三月末県立浦和高校長を定年退職し、三十七年に亘る教職生活に終止符を打ちまして、今後は山と写真とで満足のいく境地をと考えていましたところ、請われるを辞し難く六月より全国高等学校長協会の事務局長の仕事を任されまして、毎日霞ヶ関の国立教育会館通いをしています。(本庄市小島六一五三三)



塚原 千尋
(三二一三六)

忘れ得ぬ本庄高——
(一)まごころも かなしみも筆には
つくり難しあゝ想出の本庄高よ



飯浦直哉
(三八一五五)

本高を去って以来大宮武蔵野高校に七年、生徒指導に忙殺されつつ頑張っています。新任から十七年も本高に勤めたお蔭で、今だに卒業生諸君とおつきあいが続いているのは嬉しい事です。柏クリンハーモニも健在で「ミニミニセンター」で練習しています。本高へ帰れるものなら帰りたいと望郷の思い募らせる此の頃です。(大宮市宮前町二五六六)



「末だ校長四年半」
(一)長き日射の傾く頃よ あかね雲
金西空に映ゆる雄姿 ああ思い
出す本庄の空
「現在地より本庄は真西」
「目毎に起る遠雷と上州おつしの
北風異常、虚勢の噂は遂に絳床
富沢先生を神とも敬する要やつ
れあゝ想出の本庄よ」
(茨城県北相馬郡守谷町坂町五六
九)

終身会費納入についてお願い

親愛なる同窓生の皆様、平素本高同窓会の為に多大のご協力と賜り誠に有難うございます。私達は同窓会の本旨に則り、母校への寄与と会員相互の親睦向上を念願し努力致しております。同窓会活動を円滑に推進する上で一番大事なこととは御案内の通り財源の確保であります。幾多の事業を遂行しようと思つと、相当の基礎財源を必要とします。本高同窓会では年会費、金壹千円と入会金、金貳千円と、それに終身会費金壹万円と、特別寄付金、其の他で財源を賄つております。終身会費納入制度は昭和五拾年持田前会長の時代に総会の議決承認を得て制定されました。現存約八百名の納入者がございます。終身会費納入者には、金壹万円のご拠出でその後の年会費は終身不要です。尚、同窓会本部の終身会費納入者ご芳名簿にその名を記載して、永久にその高志を称えることとしております。その上、同窓会報の発送や、総会其の他のご連絡を優先的に致します。何卒、同窓会発展のため倍旧のご支援、協力をお願い申し上げます。次第です。

終身会費ご納入の際には左記口座にご入金下さい。
郵便局振込口座番号東京三一八七〇二〇、又は埼玉銀行普通預金口座番号本庄一八九一〇七七三。

本高同窓会役員一同

終身納入者芳名(5)

卒業年度別(敬称略)

(61・4・1・11・12納入者)

旧中2 塩原英雄 旧中22 中田浩二
旧中4 鈴木二郎 旧中23 綿貫昭・川崎秀雄・田村隆
旧中15 笹尾四郎・倉林淳・新井健信 併中1 高野始
旧中17 江川郁夫・田島正治 旧女15 齊藤富子
八木一郎 旧女18 阿久沢達子
旧中20 高山晃・岡岸昭三 旧女19 佐々木久栄
女併女2 井河栄子

高1 茂木二郎・下田富子・柴崎晋・遠見嘉正
高2 横田耕治郎・中田省三・戸矢信男・福島満明・立野雄一・加藤鉄吾
高3 丸岡エイ子・金子由之助・倉林陽子・福島好正・佐々木年重・海保晃・斎藤章・山本敬代子・萩原吾郎・若松邦彦・山口幸子・蓮沼賢次郎・増野武夫・小泉正信・川瀬晃
高4 大原明子・相川彰・阿部和子・河田好雄・坂本晃一・田中洋子・金井近夫・須藤茂子・松本茂・久藤富子・松原俊・金井寛規・笹原君代・小暮富司・沖元光代
高5 関口敏明・金井博雄・窪田章子・長尾喜美江・千田米子・風間玉江・岡田実・高橋鉄二・常木茂司・山田容子・飯塚陽司・根岸雄三・野枝直治・木村和彌・鈴木俊子
高6 柳田伸吉・松村登子・近藤徹・塩原慎一・河辺貞子・小林伸吉・飯塚礼路・栗原勝信・町田頭・青山年子・桑原美知子・竹内恵美子・高山二雄・坂本正彰・岡田久子・井田正子・牛込トシ子・内田ふき子・飯島八千代・岩田幸彦・河田弥代
高7 広田みつ江・巴行雄・中島春夫・大林晴美・関口道子・小賀野美登子・遠藤武・蜂須和枝・青木六郎・斎藤樹・小杉キミ子・保坂浩哉
高8 越智光枝・今野佳子・小沢和枝・斎藤佳子・角谷八千代・見嶋治子・小川カネ子
高9 古田渡子・徳地雅子・坂上スミ子・村岡伸一・加藤直司・西川公子・古部貞治・木村悦子・納見高子・藤間綱代・関根邦夫・塚田紀美子・織茂初枝・高橋克巳・坂本幸夫
高10 中野浩司・井上章三・栗原ノリ子・岩田紀美代・白井昭子
高12 關根邦保
高13 小沢徹之
高17 前田修一郎
高18 川上芳男
高19 駒沢文雄
高20 佐藤雄司・中西守・中沢広志
高33 多田永
高34 庄田悦子
高37 加納一
定1 島村弘
定3 松原和子
定4 富原利久・江原俊夫
定6 立野栄二・佐藤麗子
定8 小林弘子
別6 栗原君代子
特別寄付 高橋美典 一〇、〇〇〇
脇坂佳治 一〇、〇〇〇

【高校11回・20回再掲】

高11 萩原明・入和男・関根義夫・江原節子・野口邦雄・小林明子・松田淳子・山田米作・湯浅和夫
高12 新井栄治・木村正明・久保田幸三郎・小暮美智枝・小林晶・中野朋子・関根邦保・能勢栄
高13 石田祐寛・小沢徹之・大塚俊雄・久保梅子・中村勝・福島八郎・加納弘子

高14 牛久保敬一・真下恵美子・富田百合枝・大沢洋子・小野英彦・丸山勇・宮部彰・吉田俊子
高15 野本朋子・須藤美恵子
高16 渡部潤子・久保敬義・矢野公枝・木村幸子
高17 飯島弘子・尾崎志津子・廣田勇・小暮浩一・小林照行・塚越純子・永野史代・前田修一郎・松本真明
高18 鶴田能紀・川上芳男・幸田優二・田中茂夫・田中靖夫・鳥羽登・塩原正明・吉田敬一
高19 植原育雄・内田規晴・恩田高治・小谷野博・駒沢文雄・手計京子
高20 新井邦彦・大塚一男・門倉実・佐藤雄司・清水英夫・鈴木律子・中沢広志・中西守・平野すみ子・古内由紀子・目黒輝久
定11 金井文太郎・設楽正春
定16 大塚宏
定18 池田修爾・大場正明・小林正夫
定19 大塚実・豊田朱実・塩原豊
別8 井草光子

謹告

すでに終身会費を納入いただいた方でも昭和三十四年卒から昭和四十三年卒(高11・高20卒、定10・定19卒、別7・別11卒)の方々に「郵便振替用紙」が同封されましたのでお返し下さい。

支部役員

本庄地区連合支部長 立川 大作
上里地区支部長 荒井富士雄
泥玉地区支部長 吉田 建治
美里地区支部長 新井富士重
神川地区支部長 戸谷 久衛
柳東地区支部長 新井 健信
深谷地区支部長 関口 一郎
寄居地区支部長 朝比奈利雄
熊谷地区支部長 西村 茂雄
県庁東南支部長 高橋 英二
伊勢崎地区支部長 小此木重一
東京地区支部長 富田 三郎
本庄市役所支部長 黒田 達雄
エーザイ支部長 春日 伸康
沖電気支部長 小沢 徹之

新年懇親会

とき 二月十四日(土)午後
ところ 本庄市・五州園
支部長会議 午後三時
懇親会 午後五時
会費 三千元
申込 一月二十日迄同窓会事務所に申込下さい。

昭和62年度 総会

とき 六十二年六月五日(土)午後三時
ところ 本庄市埼玉ランドホテル
総会(記念音楽会・懇親会(希望者)会費三千元)